令和4年度 予算審査のあらまし

令和４年度一般会計及び７特別会計予算（総額2，861億3，584万３千円）並びに議案第８７号「藤沢市職員定数条例の一部改正について」ほか４議案、計１３議案は、３月４日に設置された予算等特別委員会において９日間にわたり審査が行われました。

その結果、３月２２日の本会議で全て可決されました。

ここでは、予算等特別委員会の審査の概要をお知らせします。

令和４年度予算等特別委員会委員

委員長	桜井　直人	副委員長	永井　　譲
委　員	山内　幹郎	委　員	西　　智
〃	清水竜太郎	〃	松長由美絵
〃	杉原　栄子	〃	甘粕　和彦
〃	柳田　秀憲	〃	塚本　昌紀

SNS緊急速報情報サービス
複数の情報をAI技術で解析
災害時の情報収集を効率的に

質問　SNSを利用した災害時の情報収集について、2019年の台風19号の際、長野県はハッシュタグを用い、情報提供を呼び掛けた。本市は今後、どのように情報収集を行うのか聞きたい。

答弁　複数のSNSに上がった情報の中から、AI技術により位置情報や画像の重要度などを解析し、選択した条件に関する情報を知らせてくれるSNS緊急速報情報サービスを導入する。

質問　2018年の西日本豪雨では、SNSを使った救助要請が、消防のみならず市役所にも寄せられたと聞いている。

SNSの情報は信頼性が問題となるが、本市ではこのような救助要請に対し、どのように対応していくのか聞きたい。

答弁　救助要請や通報等は、原則電話によるものとしていたが、今後はSNS緊急速報情報サービスを活用することで、SNS上の必要な情報を集め、誤った情報等を排除し、同事案を取りまとめるなど、効率的な情報収集が可能となる。SNS上で得られた災害の画像や位置情報を活用し、市内における災害の発生状況や被害状況、要救助者を確認し、効果的な救助活動と災害対応につなげていきたいと考えている。

再生可能エネルギー導入に向け、公共施設を有効活用＝大道小学校

PPA事業を導入
地球温暖化対策の推進
太陽光発電システム設置を

質問　太陽光発電システムの普及促進に向けた取組であるPPA（※）事業について、仕組みとメリットを聞きたい。

答弁　事業者が公共施設等に太陽光発電システムを設置し、市は発電された電気を購入する仕組みであり、メリットとしては、初期費用や設備の維持管理が不要で、再生可能エネルギーの電気が使用可能となる。

質問　地球温暖化対策を進めるには、PPA事業などにより太陽光発電システムを設置し、再生可能エネルギーを導入していく必要があると考えるが、検討状況や課題を聞きたい。

答弁　検討状況については、既に太陽光発電システムを設置している施設を含め、小中学校や保育園、公共施設の駐車場など、今後の再整備や統廃合の計画などを考慮しながら導入に向け、関係課と調整をしている。

課題については、PPAの一般的な契約期間が15年から20年と長期になるため、建物の老朽化や屋根の構造などの状況により設置場所が限られることや、設置面積や使用電力によって電気代が異なることであり、こうした点を踏まえ、対象施設を検討している。

市営住宅の長寿命化
居住しやすい環境を

質問　市内の市営住宅に住む高齢者のために、階段に手すりを設置するなど、必要なバリアフリー対応を積極的に行っていくべきと考えるが見解を聞きたい。

答弁　市営住宅の長寿命化計画において、階段室に手すりが設置されていない住宅は外壁改修工事の際、手すり設置などのバリアフリー工事を位置づけており、今後設置を進めていく。

また、階段室手前の住宅外となる箇所は対応できないため、自治会などを通し、対応を図っていく。

質問　必要とする市民が市営住宅に入居できるよう、入居後も居住の安定が図れる直接建設型の住宅を基本とし、市営住宅を増やすことを検討すべきと考えるが見解を聞きたい。

答弁　建築年数が浅い住宅に応募者が集まる傾向があることから、募集倍率の平均化を図るため、設備改善の対策を行いながら利用しやすい運営に努める。

本市では年２回の定期募集以外に、受付順に入居できる随時の募集をしているが、現在は空室が総管理戸数中の約15％を占めており、新しい住宅の建設については、慎重に判断していきたいと考えている。

ふれあい入浴拡大
高齢者の利用促進を

質問　ふれあい入浴事業について、令和４年度は週２回から週５回に入浴回数が増えるが、対象となる浴場の場所から、特定地域に利用者が偏ると思うが、どのように新規利用者を増やしていくのか市の見解を聞きたい。

答弁　本事業は高齢者いきいき交流事業が廃止になること、及び高齢者や同居家族から、掃除などの負担や一人で入浴することへの心配の声を多くいただいたことから、藤沢浴場組合と協議し、入浴回数を増加した。

この拡大により、高齢者の入浴機会促進や環境衛生の向上を図り、多くの方に利用してもらえると考えている。

質問　公衆浴場を災害時のインフラとして活用することが重要であると考えるが、災害インフラとしての位置づけをどのように考えているか聞きたい。

答弁　公衆浴場については、本市と藤沢浴場組合とで、災害時における入浴支援等に関する協定を締結しており、被災者に加え帰宅困難者に対する入浴支援を行い、生活衛生の提供をするなど、災害時における公衆衛生維持の役割を果たすものと考える。

健康づくりを促進
楽しめる取組を

質問　ふじさわ歩くプロジェクトについて、令和４年度はさらに多くの市民が楽しく参加できるような事業にするため、どのように取り組むのか聞きたい。

答弁　３年度に就労世代を取り込むキャンペーンを実施していることから、４年度については、これらの参加者には継続して参加していただけるよう、そしてさらに多くの方に参加していただけるよう、設定や期間などを見直していく予定である。

質問　チームで参加するふじさわ歩くプロジェクトなどのキャンペーンは、チームの平均を下げないように歩く意欲が湧き、励みにもなると考える。

健康経営などの観点からも、企業や団体等にも積極的に参加していただけるような取組について、どのように考えているか見解を聞きたい。

市民が楽しく参加できる健康づくりのキャンペーンを

答弁　元気ふじさわ健康プランの中間評価では、就労世代の肥満や身体活動の低下が課題となっていることから、藤沢商工会議所と協力して、アンケートを実施する予定であり、就労世代の健康づくり、身体活動の促進について積極的に取り組んでいく。

投票所への移動支援
湘南大庭地区で検討

質問　令和３年度の衆議院議員選挙において、長後地区で投票所への送迎を試験的に実施したが、利用した市民の声や課題について、どのように認識しているか聞きたい。

答弁　移動支援については、衆議院議員選挙の日程が直前に決まったことから、周知が十分にできなかったが、交通空白地といわれる長後地区北西部を対象に実施し、利用者からは、非常に良い取組であったとの声をいただいた。

また、ジャンボタクシーを利用して停留所を回る方式で実施したが、交通空白地であることから、道幅が狭く、停留所を設けることが難しかったこと、及び市民が乗合タクシー事業と混同した結果、利用者数が伸び悩んだことが課題と捉えている。

質問　４年度の参議院議員選挙に向けて、どのように取り組んでいくのか見解を聞きたい。

答弁　衆議院議員選挙では、交通空白地と言われる場所を対象として試行的に移動支援を実施したが、参議院議員選挙では、市内で高齢化率が最も高く、期日前投票所を設置していない、湘南大庭地区での実施を検討している。

運行時はパネルを貼付

投票しやすい環境を目指し、期日前投票所までの移動を支援

人権擁護委員候補者の推薦等に同意

○人権擁護委員候補者の推薦について

藤沢市域の人権擁護委員の１人が、令和４年６月30日をもって任期満了となるため、候補者を推薦することについて、議会の意見を求めるもの。

議会はこれに同意した。

任期は４年７月１日から７年６月30日までの３年間。

・佐藤早苗氏（新規推薦、藤沢市在住）

○個人情報保護審査会委員の委嘱について

藤沢市個人情報保護審査会委員の５人が、令和４年３月31日をもって任期満了となるため、委員を委嘱することについて、議会の意見を求めるもの。

議会はこれに同意した。

任期は４年４月１日から６年３月31日までの２年間。

・小澤弘子氏（再任、鎌倉市在住）
・篠崎百合子氏（再任、鎌倉市在住）
・宮地基氏（再任、横浜市在住）
・吉田眞次氏（再任、横浜市在住）
・山田峰彦氏（新任、藤沢市在住）

（※）PPA…電力販売契約（Power Purchase Agreement）。企業・自治体が保有する施設の屋根や遊休地を事業者が借り、無償で発電設備を設置し、発電した電気を企業・自治体が施設で使うことで、電気料金と二酸化炭素排出の削減ができる。